



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

## 2010年8月号

### 「主題」・「スローガン」

- 国際会長 : 「心新たに立ち上がろう」・「明日《あす》への橋を架けよう」  
 アジア地域会長 : 「心新たに立ち上がろう」・「世界平和をワイズの手で」  
 西日本区理事 : 「飛翔たとう ワイズスピリットを胸に」・「泰然自若の精神で」  
 中部部長 : 「ワイズはフェイス to フェイス!」・「コミュニケーションは顔を見て声をかけて」  
 プラザクラブ会長 : 「とにかく楽しくやってみよう」  
 【Youth Activities=ユースに語りかけよう! 夢と希望を! 】

### 8月例会・今後の予定ご案内

#### 【8月第1例会】

日 時 : 8月5日 (木)・18:45-  
 場 所 : 名古屋YMCA会議室  
 内 容 : 卓話・大平純市氏

#### 【8月第2例会】

日 時 : 8月19日 (木)・18:45-  
 場 所 : 名古屋YMCA会議室  
 出席者 : 役員 (島崎・榎田・後藤)  
 (義務者) 9月担当者 (小澤・大島)  
 10月担当者 (高田・松永)

#### 【今後の予定】

- パレットキッズとマス釣り会  
 日 時 : 8月12日 (木)・現地集合10:00  
 場 所 : みやま荘・TEL. 0264-27-6177
  - 9月第1例会  
 日 時 : 9月2日 (木)・18:45-  
 場 所 : 名古屋YMCA会議室
  - 9月第2例会  
 日 時 : 9月16日 (木)・18:45-  
 場 所 : 名古屋YMCA会議室
  - 中部部会  
 日 時 : 10月2日 (土)
- ◆10-11年度プラザクラブ役員
- |              |        |
|--------------|--------|
| 会長           | 島崎 正剛  |
| 副会長          | 松永 裕子  |
| 会計           | 後藤 猛   |
| 書記・メール委員     | 榎田 守隆  |
| 直前会長・IBC     | 鈴木 誉三  |
| YMCAサービス     | 小澤 幸男  |
| EMC・広報事業     | 高田 廣   |
| CS・BF・JWF・EF | 大島 孝三郎 |
| 連絡主事         | 万福寺 昭美 |

### 7月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
	大島 孝三郎	○			○
	小澤 幸男	○			○
書記	榎田 守隆	○	○		○
会計	後藤 猛	○	○		○
会長	島崎 正剛	○	○		○
直前会長	鈴木 誉三	○	○		○
	高田 廣	○			○
副会長	松永 裕子				
連絡主事	万福寺 昭美	○	○		○
ゲスト	大平 純市	○			
	東田 美保	○			
M=メモキップ					
出席率合計・(算定合計/会員数) %					88.9
1. ニコボックス (円)					
2. オークション・切手					
ファンド・当月合計/累計					
9月号のプリテン寄稿者は島崎さんです。 400字詰原稿用紙4-5枚程度でお願いします。 Eメール : moritaka_kushida@ybb.ne.jp					
9月号・島崎/10月号・高田/11月号・大島 12月号・後藤/1月号・万福寺/2月号・松永					
◆インターネットをご利用の方は、上記西日本区中部ホームページの「名古屋プラザクラブ」を閲覧ください。					

## 7月第1例会報告

日時：7月10日（土）－11日（日）

場所：師崎 民宿「あら井」

### 1. 会長挨拶

(1) 標語は名古屋弁で「とにかく楽しくやってみよまい！」とする。

#### (2) 目標

a. プラスワン例会 4 回開催。

メンバーは第1例会に1人以上のゲストと同伴出席してクラブの活動内容を知っていただき次項の新会員勧誘に繋げる。「プラスワン例会」とはゲストを招くために設定した特別な例会ではなく、ゲストが参加した通常例会を言う。

b. メンバー増員 4 名。

1 項の実践によりメンバーの増員を図る。

c. LD 児の作ったファンド箱 (BF) をチャリテーラン支援企業に設置する。

3 社ほどを予定、切手の収集・ワイズの PR を目的する。

c. クラブ資料 (リーフレット) を 1 人当たり 10 枚配布、その配布先を報告する。

d. メンバーの誕生月にお祝いの歌 (ハッピーバースデー) を例会開催前に全員で合唱する。

e. 老人ホームへの音楽出前を継続する。

f. LD 児支援を継続する。

j. 名古屋で隔年に開催される「インフルエンザ脳症講演会」支援を継続する。

h. 楽しい飲み会の開催。

(3) 10-11 年度役員 (1 ページ目掲載)

### 2. 事業報告・鈴木

プラザ3つの奉仕活動である老人ホームの音楽慰問、LD 児支援、インフルエンザ脳症の後援会支援のうち、隔年開催で名古屋地区の講演会がなかった「インフルエンザ」を除き、2 つはみなさまのご協力のお蔭で滞り無く終わりましたことを感謝します。

3. 会計報告・高田 (略・配布資料参照のこと)

4. 事情計画 (案)・島崎 (略・)

5. 予算 (案)・後藤 (略・)

6. 例会開催日の変更・島崎

YMCA、メンバー内からの要請により第 2・4 木曜日開催されていた第 1・2 例会を第 1・3 木曜日に変更する。従って配布した事業計画の例会開催日を訂正願います。

### 7. 懇親会

8 月より会議前のお祝いソング、高田さんのハッピーバースデーを歌って例会終了、休憩 1 時間を挟



(懇親会を始める前にハイチーズ、これから賑やかでした)



(前会長の後ろで手拍子しながら控える新会長、よろしく!)



(船で写すのを忘れました・戦いすんで日が暮れて)

んで懇親会は 6 時から始まった。

海の幸がテーブルに並ぶ。当然のように目の前のワタリガニから手を付けた全員は無口になる。懇談を目的にした宴会にカニ料理は不向き、と言われているが、食べ終わると賑やかになってきた。ビールやお酒を注いだり注がれたり、いつもの雰囲気になる。やがてみんなが気にし始めたのは、舞台上に立てられたマイクとその脇にあるカラオケ装置、「幹事、カラオケ！」の声に帳場に走る。

9時までならOKと大広間に戻ると既に選曲をしている。

カラオケセットがスナックやバー、クラブなどに置かれるようになったのはいつ頃からだろうか。われわれ世代は歌声喫茶の素地もありすんなり受け入れられたが、青春時代が戦争中だった当時のおじさんたちは苦勞したようである。当時、接待の席で「部長いかがですか？」と勧めて聴かされた下手なシャンソンに、「酒に酔った勢いで歌う」のがカラオケだと思っていたにも拘らず、「場を考えろ」と上司を恨んだことがある。

ここに居るおじさんたちは自分の若き時代を思い出しながら、それなりの曲を歌って、そこそこ上手である。予定時間が過ぎた。懇親会を終了する。

## 翌日は釣りでした

5時前に着く。トモから胴の間にかけて5席が確保してある。6時出船1時間の航程で今日の釣り場「大山沖」に到着、釣法はテンビンにコマセかごを吊るし、先にハリスを結び、かごを振ってコマセを蒔き、潮に乗って流れる撒き餌に擬似バリを紛れ込ませて釣るビシ釣り。

船頭の指示棚25mにハリス長さを加えた27mまで降ろしてかごを振り、リールを2回巻いて待つ、二度同じことを繰り返してコマセが空になった頃合いを計り、詰め替えに巻き上げる。後藤さんにイサキが来た。彼はこれで「今日は入れ食い」を予感したらしいが、帰るまでこの1尾だけである。イサキはタナを釣れ、と言われるほど棚が大事でタナ探しが釣果を分ける。船頭の指示棚は目安であり、「真タナ」はそこから下の場合が多い。

万福寺さんは具合が悪くなったらしく、船べりを掴んで海面を見ている。東田さんはサバが釣れたと騒いでいる。てこ(助手)のおじさんたちが女性2人の面倒をみているから手がかからず助かる。それどころではない。まだイサキ3尾である。左隣の兄ちゃんには仕掛けをとっかえひっかえしながら、10尾以上は上げている。幹イト、ハリスとも2号ではすぐよれるため、上げるたびにイトをキュキュと引っ張って矯正していたが、「その手があったか」と終わり際に気がついた。理屈を知りながら実践しなかったり、実践しても成果が現れないと放棄したりするむら気が災いしている、と誰が言っていた。イサキ、島崎・後藤・東田1、櫛田3、万福寺5、自らのコマセでイサキを誘った万福寺さんが最優秀賞、飲みすぎには注意しましょう。

## 7月第2例会報告

日時：7月15日(木)・18:45-19:45

場所：名古屋YMCA会議室

### 1. 10月中部部会・島崎

予定1泊2日、出席者は5人+ $\alpha$ 、マイカー2台に分乗する。東海クラブのバスはお断りする。

### 2. LD児との釣り会・櫛田

8月12日(木)、子ども20人、リーダー20人総勢40人ほどが参加してみやま荘で開催する。

### 3. リーフレット増刷・島崎

会長目標のリーフレット配布について、万福寺さんは現在の在庫部数を確認して200部に不足する部数の用紙を手配の上、早急に印刷してください。

### 4. ブリテンについて・櫛田

例会開催日の変更に関係なく、ブリテンは従来通り第4木曜日(旧第2例会開催日)から5日以内に発行・郵送を行う。なお、中部ホームページは翌月の1日から閲覧出来ます。ただし、郵送・ホームページアップの日と第1例会の開催日が接近する月がありますので、(例・10年8月31日発行、9月1日郵送およびホームページアップ、9月2日第1例会開催)ご注意ください。今後、実施過程で不都合が発生した場合、その都度話し合いの上改善策を講ずる。

### 5. 第1例会行事内容・島崎

各月行事内容はその月の担当者が提出、8月第1例会にて全員で討議する。

## 仕事が暇になり考えること

私の会社は中区の伏見にありますが、リーマンショック以降急に仕事も暇になり、時々営業時間中に会社の近くを散歩がてら歩き街の変化の様子を見えています。シャッターを閉めたままのお店や駐車場が多くなり、また多くのビルにテナント募集の張り紙が貼られ、残念ながら昔の活気ある街の雰囲気はなく、空きビルも多いせいか人通りも少なくなりました。

4年程前は、東西の大手不動産業や商社資本による貸しオフィスを目的としたビルが一度に何十棟と出来、この地区は貸しオフィス街として新しく発展していくと思っていましたが、この2年程の間に新築されたビルの7割近くが空室という状況や、買われた土地が更地のままという現状を見ると疑問符がついてきました。4・5年前、同業者との会合で全員が本業に見切りをつけて駐車場や貸しビル業に転業したら供給過剰になり、共倒れに

なると笑い話をしていましたもう目の前の現実問題となりました。

現在、私の会社でも販売している繊維商品の9割近くがいつのまにか中国産になり、中国という生産地なしには商売が成り立たなくなりました。今は自動車・家電産業等の裾野の広い生産産業が急速に中国を中心として海外移転をして、繊維と同様に中国なしには生産が成り立たなくなり、本当の意味での産業の空洞化が進み国力も落ちてしまうのではと不安を感じます。空洞化が進めば国内の雇用情勢は厳しいままで国内景気が自立回復するとは残念ながら思えません。

この頃同業者の会合でも話題としてよく出る話は、昔日本がアメリカで不動産を買ったように、今度は中国の資本がこの地区の不動産を買い、海外の会社がテナントとして入居するような変化がないと、この地区の発展はないのではという中国まかせの意見も出てくるようになりました。日本人としては不安で淋しい話ですがその様にならない為にも、今こそ政治が安定し国として産業の空洞化をいかに止めるか、明確な方針を出す時期なのではと思います。

(鈴木 誉三)

## 日本が戦争に負けた日

正午になると野球を中断して守備側は、そのポジションで黙禱する。毎年8月15日に行われる高校野球のひとつコマである。

昭和20年8月15日、母親の郷に疎開して国民学校1年生の夏休み、悪童連と遊び「腹が減った」と帰った実家の庭に近所の大人たちが集まって、雑音の多いラジオを聴いていた。放送が終わった後の様子がどうだったか、記憶が心もとない。戦争に負けた悲壮感も戦争が終わった開放感もない、何となく「集会が終わった、さあ帰ろうか」程度で三々五々それぞれが雑談しながら家に帰る、普段の風景だったような気がする。もっとも、ガァガァ言うだけのラジオが何を言っているのがわからなかった、からかもしれない。この日を境にみんなの言うこと、やること、考えることが180度変わった。国民学校1年生の子ども目から見てもそれは見事であった。

その1年前の夏、6歳年上の子がある日の夜コンコン様をするからと誘われた。彼の部屋には4人の上級生がいた。ローソクが1本机の端に立てられ、真ん中には30cmほどの長さの棒3本束ねて先端を縛り、もう一方を開いて三脚のように立て、中心から錘をつけたイトをぶら下げてある。これらの道具

をどう扱ったのか全く覚えていない。1人が祈り？他の者は手を合わせて拝んでいた。儀式が終わり、しばらく沈黙のあと「戦争は負ける」とのご宣託を祈った子が伝えると「やっぱり」の声がした。ポツダム宣言、原爆投下のほぼ1年前、東京・名古屋がB-29に空爆される半年前である。国民の多くは戦争に負けることを肌で感じていたのではないか。

敗戦の翌年、映画監督伊丹万作のエッセイ「戦争責任者の問題」で「あんなにも雑作なくだまされるほど批判力を失い、思考力を失い、信念を失い、家畜的な盲従に自己の一切を委ね・・・「だまされていた」と言って平気でいられる国民なら、恐らくこれから何度でもだまされるだろう」と書いている。たった12歳の子の「やっぱり」は予見できるはずもなく、周囲の大人たちの言葉が根拠だろう。騙されたのでない、騙されたふりをしただけである。

(楡田 守隆)

## 聖書の言葉

【憤(いきどお)ったまま陽を入らせるな】

【怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。悪魔にすきを与えてはなりません。(エペソ人への手紙 4. 26-27)】

【紀元62年にパウロが小アジアのエフェソ(現在のトルコ共和国、エーゲ海沿岸の東端に位置する)のキリスト教会共同体にあてた書簡とされている。文字通り『怒るのはイエスでもそうなのだから良いが、感情を高ぶらせて罪を犯してはいけません。怒りを蓄積していると陸(ろく)なことはありませんよ。』とでも解釈する。】

【小学校3年生の男の子が、朝近くの友だち二人とスケボーをして遊んでいる。庭木に遮られて姿ははっきり見えないが、交わす会話はよく聞こえる。新聞を読みながらふと耳に入る言葉が、「可能性」「積極的」などと小3にしては難しく驚く。道路を隔てた向かいの子が、下手な友だちを教えているらしいが、教えられる方は馬鹿にされたと思ったのか「〇〇君は僕を見下している」と怒り、泣きながら玄関のベルを押した。出てきたお母さんに「〇〇君は僕が下手だと言って馬鹿にするから注意してください」。「見下している」の語句にはまたまたびっくりしながら、子供の喧嘩も昔とは違うと感心する。「〇〇はね、学校から帰ってここで1時間滑って夕方もしていたのよ、××君はどれだけ練習しましたか?」、「・・・」。お母さん! 見上げたものである。】